

ことばの科学研究原稿サンプル[游明朝 16 太文字]

—サブタイトルは改行して中央揃え—

(1行空ける)

ことば 学[游明朝14]

ことばの科学大学[游明朝 12]

(1行空ける)

Abstract [Times New Roman 12・太文字 200語以内]

This academic society aims to explore the concept of “Speech Science” as an interdisciplinary field of the human mechanisms of language comprehension, production, and acquisition. It also plans to apply the scientific evidence that is derived from the research to foreign language education. The deadline for submissions to *Journal of Japan Society for Speech Sciences* (scheduled for publication in May) is November 30. Please refer to the journal’s Guidelines and Rules for Submission when writing your paper. [Times New Roman 12]

(1行空ける)

Keywords: ことばの科学 (speech science), [キーワードを5つ以内で日本語(英語)両表記。游明朝12, (Times New Roman 12)]

(1行空ける)

1. はじめに [游明朝10.5・太文字]

このテンプレートは、「ことばの科学研究」に日本語で原稿(研究論文, 実践報告)を作成する際に使用するものである。著者が複数いる場合は, 1人目の後, 1行スペースを空けて氏名と所属を記入する。日本語で原稿を書く際にも, 約200語以内の英文の要約を付けるものとする。要約の後に1行空けて, キーワード(日本語原稿の場合は, 後に()でくくった英語を付記する)を3-5項目挙げる。[游明朝10.5]

1.1 タイトル・サブタイトルの書き方 [游明朝10.5・太文字]

日本語サブタイトルがある場合は, その前後をダッシュ「—」で挟む。英語サブタイトルがある場合は, コロンで区切って記載する。英語タイトルは, 冠詞および3文字以下の接続詞・前置詞以外は, 全ての語の語頭を大文字とする。[游明朝10.5]

1.2 書式注意点 [游明朝10.5・太文字]

テンプレートの書式(文字フォント, 行数, 余白など)は変更しないこと。使用する書体は, 原則として和文の場合「游明朝」, 英文の場合「Times New Roman」とする。文字の大きさは和文の場合10.5ポイント, 英文の場合12ポイントとし, 1ページの行数を35行とする。和文の場合は1行40字とする。原稿は約20ページ以内とする。

日本語の句読点は, 「, 」と「。」にする。英数字には半角を使用し, 全角は原則として使用しない。また, 和文中に英語を使用する際は, 英語の記載をTimes New Roman (この場合は10.5ポイント)とする。日本語論文の場合, 段落はじめを全角で1文字分(英語論文の場合は, 半角で5文字分)空けて書き始める。ページ番号は入れずに提出する。投稿時に形式が守られていない場合には, 提出を受け付けない場合がある。[游明朝10.5]

1.3 見出し番号の付け方 [游明朝10.5・太文字]

本文を章・節・項といったカテゴリーに分類する際には, 章の見出し番号の後にピリオドを入れる(例: 1. はじめに)が, 節・項の見出し番号の後は, ピリオドは入れない(例: 1.1 タイトル・サブタイトルの書き方)。階層レベルは, 原則として3段階(項レベル)までとする(例: 1.2.1)。それぞれの数字の後は, 半角2文字分(全角1文字分)のスペースを入れる。[游明朝10.5]

2. その他のガイドライン [游明朝10.5・太文字]

2.1 引用方法 [游明朝10.5・太文字]

本文中での引用方法はAPAの最新版に基づく。日本語で原稿を書く場合は, 前後の括弧を全

角()で記載する。英語で原稿を書く場合は、全て半角括弧()となる。和文中引用の一例を示すと(Baddeley, 1986; 河野, 2001, p. 102; Naigles, 1990)のようになる。括弧内はアルファベット順で記載する。著者が2名以上の場合は、阿・林(2014)というように、間を黒・で区切る。著者が3-5名の場合は、英語の場合と同様に、初回の引用では全ての著者を明記し、2回目以降は、第1著者名他(年号)とする。6名以上の場合には、原則、初回から、第1著者名他(年号)とする。[游明朝10.5]

2.2 表・図の書き方

2.2.1 表の書き方 [游明朝10.5・太文字]

表は本文に埋め込む。表X(Xはアラビア数字の通し番号。Xの後にピリオドは不要)と左寄せで記載し、1行下に表のタイトルを記載する(タイトルの後にピリオドは不要)。[游明朝10.5]

表1
事前・事後リスニングテストの結果

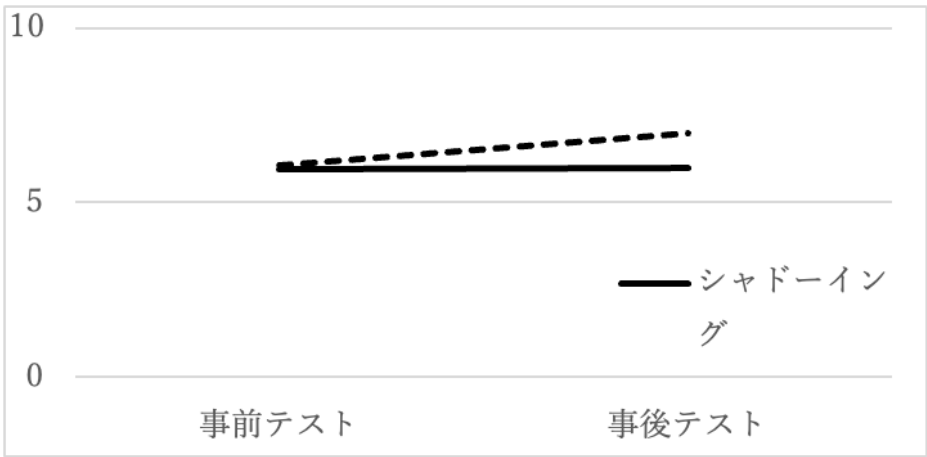
トレーニング	事前テスト	事後テスト
シャドーイング ^a	5.95(1.89)	6.01(1.99)
リピーティング ^a	6.05(1.97)	6.99(1.78)

Note. ^an = 40; Mean (SD)

2.2.2 図の書き方 [游明朝10.5・太文字]

図は本文に埋め込む。図X.(Xはアラビア数字の通し番号。Xの後にピリオドを付与)の後、半角2文字分のスペースを空けて、キャプションを、図の幅に対して中央寄せにして配置する。英文の場合は Figure 1. の部分だけイタリックにするが、和文ではイタリックにしない。また、英文では、図のキャプションはセンテンスのため、文末にピリオドが必要だが、和文では句読点は用いない。[游明朝10.5]

図1
事前・事後リスニングテストの結果



2.2.3 図表掲載時におけるその他の注意 [游明朝10.5・太文字]

図表の前後は1行空ける。原稿は白黒で縮小印刷されるため、色をつけないように、図・表中の文字や数字が小さくなりすぎないように注意する。転載許可の必要な図表を他の文献資料から転載する場合は、投稿までに許可を得ておくこと。[游明朝10.5]

2.4 匿名性の確保 [游明朝10.5・太文字]

投稿時には、著者が特定出来ないように注意を払う。例えば、著者自身の研究を引用する場合は、著者(2019)のように本文中には記載し、引用文献でもリストの最後にまとめて挙げる。論文が採択された場合に、全ての情報を正しく記載して、最終原稿を提出する。[游明朝10.5]

謝辞 [游明朝10.5・太文字]

著者が特定されるような謝辞は投稿時には記載しない。採択された後に、“本研究は、XX年度科学研究費補助金・XX研究「XXX」(課題番号XX, 研究代表者 XX)の助成を受けている。”のような記載をする。[游明朝10.5]

注 [游明朝10.5・太文字]

1. 注は脚注ではなく、文末脚注を用いる。文末脚注は、本文と参考文献の間にまとめて記載する。
2. 本文中では「引用方法はAPAの最新版¹に基づく」というように右肩上付で注をつけておく。 [游明朝10.5]

引用文献 * 本文で引用したもののみをアルファベット順に掲載する。

阿栄娜・林良子 (2014)「シャドーイング訓練によって日本語学習者の発音はどう変化するか」横川博一・定藤規弘・吉田晴世(編)『外国語運用能力はいかに熟達化するか—言語情報処理の自動化プロセスを探る』(pp.157–179). 松柏社. 複数の著者の記載はナカグロを使用する。ページ数引用はハイフン(-)ではなく、en dashダッシュ(–)を使う。

Baddeley, A. D. (1986). *Working memory*. Oxford University Press.

Clahsen, H., & Felser, C. (2006). Grammatical processing in language learners. *Applied Psycholinguistics*, 27, 3–42. <https://doi.org/10.1017/S0142716406060024> 著者が複数の場合に、& の前にカンマを置く。書名は冒頭とコロンの後のみ大文字とし、斜字体で記載する。DOIのついてものは、<https://doi.org/> ***の形で記載する。

Harrington, M., & Sawyer, M. (1992). L2 working memory capacity and L2 reading skill. *Studies in Second Language Acquisition*, 14(1), 25–38. <https://doi.org/10.1017/S0272263100010457> 巻はイタリック、号はカッコ内。書名・論文名の大文字は冒頭のみ。雑誌名は単語ごとに語頭を大文字にする。

Kenyon, D. M., & Malabonga, V. (2001). Comparing examinee attitudes toward computer-assisted and other oral proficiency assessments. *Language Learning & Technology*, 5(2), 60–83.

河野守夫(1998)。「モーラ、音節、リズムの心理言語学的考察」『音声研究』第2巻1号:16–24.

論文名は「」, 書籍・雑誌は『』。年号のあとのピリオドは全角, 「」の中でもう1回「」を入れる時は『』になる。

河野守夫(2001)『音声言語の認識と生成のメカニズム: ことばの時間制御機構とその役割』金星堂. 日本語文献の出版社地名は不要。

Naigles, L. (1990). Children use syntax to learn verb meanings. *Journal of Child Language*, 17, 357–374. <https://doi.org/10.1017/S0305000900013817>

著者 (2019)「ことばの科学会の歩み」*Journal of the Japan Society for Speech Sciences*, 20, 200–210. 自分の研究を引用する場合は、匿名性を確保するために、参考文献の最後にまとめて書く(投稿時)。採択後、最終原稿を提出する際には、著者名の情報を開示し、適切な位置に文献を移動させる。